

公立大学法人和歌山県立医科大学 看護キャリア開発センター 令和2年度 活動報告

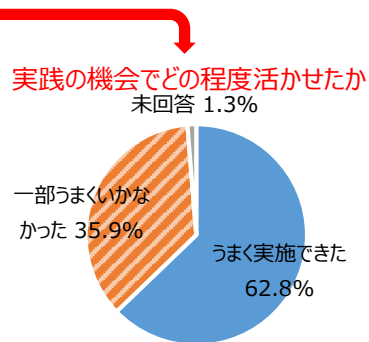
院内向け事業

院外向け事業

看護技術習得支援

のべ319名が参加した。「部署で経験できない技術が練習できる」「少人数で丁寧に指導してもらえる」「不安の解消、自信につながった」等の感想が聞かれ、先輩看護師から直接コツなどの指導を受けることでスキルを高められていた。

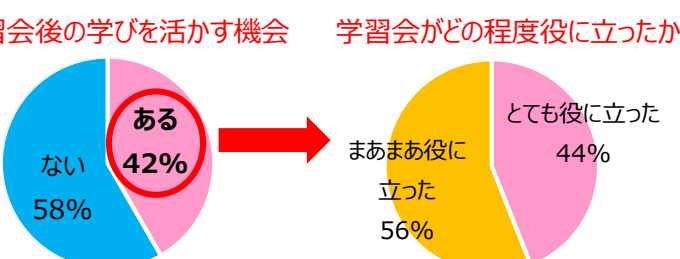
	参加者	実践の機会あり
気管内吸引	35	32
口腔/鼻腔吸引	34	34
筋注/皮下注	32	32
尿道カテ	43	30
挿管助動	10	4
胸骨圧迫	32	1
AED	26	0
気道確保	30	0
車椅子	36	6



人工呼吸器管理学習会

合計8回開催し、のべ63名が利用した。CEの指導のもと、少人数で実際に操作しながら体験的に学ぶことで、「部署で経験する機会が少ないので、実際に見て触れて学べるのでよかった」「理解が深まった」等の感想が聞かれた。

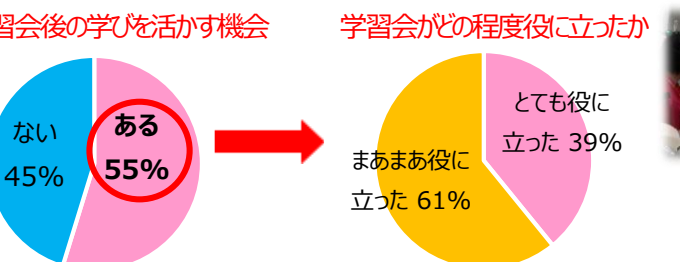
看護師経験年数(人)	学習会後の学びを活かす機会	学習会がどの程度役に立ったか
1年目	26	
2年目	21	
3年目	4	
4年目	4	
5年目以上	5	



シナリオシミュレーション学習会

合計12回開催し、のべ42名が利用した。シナリオ場面を実際にシミュレーターを用いて再現することで、より実践に近い形での気づきや学びがあり、「具体的にイメージしながら学習できた」「課題を明確にできた」「知識だけでは補いきれないことを学べた」等の感想が聞かれた。自己の実践での行動を客観的に振り返る機会にもなっていた。

看護師経験年数(人)	学習会後の学びを活かす機会	学習会がどの程度役に立ったか
1年目	2	
2年目	9	
3年目	11	
4年目	10	
5年目以上	10	



看護研究サロンの企画・運営

保健看護学部の教員の協力を得て、研究テーマやデータ収集・分析方法、倫理審査に関する事など、14件の相談をおこなった。いずれも学会発表を目指し研究を継続している。



後輩指導をする指導者サポート(リフレクション)

6部署の指導者と後輩の12組に対し、実践場面をシャドーイングし、指導する・指導を受ける場面のリフレクションをおこなった。

実施後、指導者の指導の困難さやストレスの変化について「ズレが生じていることがわかり、ストレスは軽減している」「指導のやり方を変えられたので気持ちは楽になった」と答えていた。反面、「ラウンド中にリアルタイムにリフレクションをしたいが、後回しになる難しさがある」というような意見も聞かれた。今後もできる限り多くの指導者への介入を続けていく。



県内の主要医療機関の教育担当者ネットワーク体制を構築する

<橋本医療圏>

5施設(紀北分院・橋本市民病院・紀和病院・山本病院・紀の郷病院)を対象に、地域で活躍できる教育担当者の養成を目標と定め、各施設のリーダー層・主任が参加し、人材育成に関する検討を実施した。

参加者の所属する部署・部門において人材育成の困難な点を挙げ、その困難点を解消するための取り組みを検討した。検討の結果、令和2年度の目標は、「人を育てる」ことに関する基礎的な知識を理解するために、参加者の自部署における困難点に対し、「研修企画を立案できる」こととした。具体的な実施内容と次年度の予定は以下のとおりである。

※開催はすべてオンライン会議で実施

	4月~5月・8月	7月	9月	10月	12月~3月	今後の予定
実施内容	各施設の紹介 プレゼンテーション 自施設・自部署が地域においてどのような役割を持っているか 自部署の抱える資源と課題を発表	COVID-19に関する各施設の対応に関する情報共有	参加者自身が身に付けるべき知識は何か?を検討 ↓ 「フィードバック」の方法についての悩みが多かった	参加者を対象に、当センターが「フィードバック」に関する研修を企画・実施・評価 ↓ 講義・ロールプレイを実施した 研修企画者側が実施する企画のプロセスを共有しながら行った	参加者が自部署の困難点に対する研修を企画・全員で共有 ↓ 主に「中堅看護師」を対象にした企画となった 対象の設定・レディネス把握と研修目的・目標、内容の検討を実施した	企画した研修の実施・評価を行う 評価内容を共有し、研修実施の結果残った課題について検討を続ける 組織分析を実施し、課題の洗練と強みを活かした対応方法、施設間のシェアも検討する



特定行為研修に係る看護師の研修制度の運営

令和2年度には4期生の区分別研修を実施し、3月末までに6名を輩出した。

新型コロナウイルス感染症への対応のため、予定通りに研修を実施することができず、半年遅れての修了となった。現在もお実習は続いており、順次修了する予定である。修了者の区分の内訳は以下のとおり。

現在、5期生(受講者14名)の区分別科目研修中であり、年度内に修了予定である。

令和3年度は6期生6名が共通科目を受講中である。

区分	修了者	未修了
呼吸器(長期呼吸療法に係るもの)関連	2	3
栄養に係るカテーテル管理(中心静脈カテーテル管理)関連	3	3
栄養に係るカテーテル管理(末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理)関連	2	4
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	5	5
血糖コントロールに係る薬剤投与関連	3	0

潜在看護師等の支援プログラム

新型コロナウイルス感染症の罹患予防を考え、令和2年度は希望者に対して講義配信できるよう、Web配信コンテンツを作成した。3月までに4名の参加があった。次年度も引き続きコンテンツ配信を行う方針である。



フォーラムの開催

本学内および和歌山県内の住民や医療職対象に、特定行為研修フォーラムを開催中(Web配信中)である。勇美記念財団の助成を受け、放送大学と共催で実施した。

指導者講習会の開催

令和2年度に、県内で初めて指導者講習会をWeb開催した。全国各地から37名の参加があった。

オンラインオープンキャンパスの開催

特定行為研修への参加を悩んでいる看護師や管理者向けに、オンラインでオープンキャンパスを開催し、県内外より7名の参加者があった。



受け入れ事業の拡大

新型コロナウイルス感染症の罹患予防を考え、令和2年度は実施しないこととした。次年度は附属病院看護部と検討しながら、開催したい。